

新規殺虫剤スピロテトラマト（モベント®）フロアブル

－施設果菜類の害虫防除－

砂川 崇（バイエルクロップサイエンス株式会社）

スピロテトラマト(van Waetermeulenら、2007)は、バイエルクロップサイエンス株式会社が開発した脂質生合成阻害を作用機作とする新規殺虫剤である。商品名モベント®フロアブルとして2010年2月に登録申請済みである。

本剤の特長は、

1. アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類をはじめとした吸汁害虫、ならびにハダニ類に対して効果がある。
2. 殺成虫活性は低いのが、幼虫に対する効果、および雌成虫を介した産卵数の抑制と産下卵の孵化阻害効果に優れる。
3. 天敵類および有用昆虫に対して影響が少ない。
4. 浸透移行性に優れることから、茎葉散布処理に加えてポット灌注処理も可能である。

2009年の第53回応用動物昆虫学会において、本剤の持つこれらの生物学的特性ならびに圃場における評価について報告した。今回は、これらの防除特性が果菜類の栽培場面においてどのような性能を示すかを報告する。

現在、果菜類の施設栽培において、総合防除（IPM）の概念による体系防除が普及しており、各県において防除指針が策定されている。高知県や佐賀県における施設ナスでの総合防除体系では、定植時に粒剤を施用し、その後数回の茎葉散布剤を用いた後、天敵を放飼する方法が取られている。本報告では、このような総合防除体系を想定した、モベント®フロアブルの移植時ポット灌注処理と茎葉散布処理による体系防除試験を紹介する。

モベント®フロアブルの体系防除区は、タバココナジラミ(バイオタイプ Q)及びミナミキイロアザミウマの幼虫に対し、移植から約3ヶ月の間密度抑制効果を示し、総合防除体系において用いられている既存剤を供試した区と比較して、少ない防除回数でより高い密度抑制効果を示した。

以上のことから、モベント®フロアブルの移植時ポット灌注処理と茎葉散布処理による体系防除により、施設果菜類の総合防除体系における茎葉散布剤の散布回数を軽減できることが示唆された。